

郡山東高等学校創立 90 周年記念式典

福島県高等学校長協会会長祝辞

平成 25 年 10 月 5 日（土） 13 時
郡山東高等学校体育館

ただいま御紹介いただきました、福島県高等学校長協会会長を務めております安積高等学校長の久保田範夫でございます。県高等学校長協会 99 名の県立学校長を代表いたしまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

郡山東高等学校の創立 90 周年を心からお祝い申し上げます。

また、本日、感謝状・表彰状を受賞された皆様に、重ねてお祝い申し上げます。

さて、私は新採用の只見高校時代から現在まで、新たに赴任した学校では真っ先に校歌を覚え歌えるように心がけてきました。それは、校歌の歌詞にその学校の創立以来の校訓や精神、スピリットが込められていることが多いからであり、また、校歌を歌うことでその学校と生徒を好きになれるからであります。

郡山東高校の最初の校歌は、郡山淑徳女学校時代の昭和 8（1933）年制定とのことですが、紹介しますと、

- | | | |
|---|------------|------------|
| 一 | むらさき匂ふ安積山 | 水うるはしき逢瀬川 |
| | 秀麗の気につつまれて | 学ぶわが幸 わが恵み |
| 二 | 日毎の教へ導きに | 勤労つねに尚びて |
| | 礼儀を正し温順に | 強く明るくいそしめば |

まさに、当時の校名である「淑徳」に相応しい校歌ではないでしょうか。

「秀麗の気」は、「すぐれてうるわしい」すぐれて新鮮で美しい「気」即ち空気、雰囲気の中で、「礼儀を正し温順に」勤しむ女学生の姿が浮かんできます。

この校歌が歌い継がれて 65 年が経過し、男女共学化に伴い新生郡山東高等学校の校歌が平成 10（1998）年に誕生しました。詩人谷川俊太郎さんの作詞による新校歌には、「心の宇宙無限大」というとても印象的なフレーズがあります。以前の校歌には「安積山」「逢瀬川」という地名が入っており、地域に根ざしているという感じがするのに対して、新校歌は、地元を表す言葉が無く「宇宙」が入っているため、それまでの女子校時代の伝統が途切れてしまっている印象を持たれた同窓生の方も多かったのではないのでしょうか。しかし私は、実は谷川さんの詞には、それまでの教えと伝統がしっかり引き継がれていると思っています。

谷川さんの作詞した当時の思いについては全く知らない私ですので、見当外れ

になるかも知れませんが、具体的に述べてみまますと、一番の流れる水のイメージと二番の「深く静かな夢」、これらは「逢瀬川」と「礼儀を正し温順に」に表される「淑徳」のイメージと繋がっているような気がします。「淑徳」の「淑」という漢字は、元々深く澄んだ水を表しており、そこから「よい」という意味が生じ、さらに上品でしとやかで慎ましい、女性的美徳を表すようになったことは、今更言うまでもありません。谷川さんは、地元を離れていきなり宇宙へ飛翔せよ、などと言っているのではなく、「ここ」即ち郡山東高校を世界の始まりとして、更に「安積山」を始めとする私たちの身近にある木や花などに祈りながら、日常的に「見なれた街」即ち郡山及び周辺地区」の地平を超えること、そして友の笑顔にひそむ心の宇宙に思いを馳せて、強く生きていくことを生徒の皆さんに望んだのではないのでしょうか。

私はこのように、谷川さんは、以前の校歌と女子校時代の「淑徳」の心をしっかりと引き継いでいると解釈したのですが、私自身は、新しい校歌の「見なれた友の笑顔にひそむ 心の宇宙無限大」のフレーズが最も気に入っています。「見なれた友の笑顔」は即ち、友の傍らにいる「私の笑顔」であると思うのですが、私の笑顔にひそむ心の宇宙とは、どのような世界でしょうか。深読みかも知れませんが、ここに詩人谷川さんの最も大切なメッセージが込められていると私は考えます。谷川さんの初期の詩については、「涙で曇ったりしてはいない、孤独でしかも明るいまなざし」を持ち「不思議な遠さに満ちた孤独感」「人類という種の、種全体としての孤独が根本的なモチーフの一つである」と言われますが、それはそれとして、「耳すまし求める」のも「木に学び花に祈」るのも、極めて孤独な営みです。谷川さんは、高校生である皆さんに「深く静かな」そして澄み渡った「孤独」というものを求めたのではないのでしょうか。

繰り返しますが、友の笑顔は即ち、友の傍らにいる「私の笑顔」です。私たち教師、生徒、保護者、地域の方々、そして今は見知らぬ人達とも、互いに教え、教えられ、支え、支えられ、繋がっていることは、特にこの東日本大震災以降、私たちが強く感じていることであります。そう、確かに私たちは仲間なしに一人で生きていくことはできません。しかし、例えば、自分の進学する高校や大学を選び、公務員になるか民間に勤めるか、どのような仕事をするかを選択し、生涯の伴侶となる人を選ぶ、というように私たちの人生は何かを選び取ることの連続です。このような重要な選択をする時、周囲の人々の様々な温かい励ましやアドバイスがあるにしても、最終決断はたった一人でしなければなりません。生きることは、最後は孤独な営みなのです。たくさんの選択肢の中から一つを選び取る、その決断をたった一人でする、それを絶えず繰り返していくことが生きていくことなのです。

ところで、劇作家で評論家の山崎正和さんは、「現代の子どもたちは孤独になる権利を奪われている」と述べていますが、私も全く同感です。

現在の高校3年生は、平成7（1995）年度に生まれました。この年は、パ

ソコンのオペレーションシステム Windows95が発売された、まさにネットワーク時代の幕開けといってもいい象徴的な年でした。この年に発生した阪神・淡路大震災でインターネットが有効利用されたことがきっかけとなり、日本のメディアでインターネットが取り上げられることが多くなり、「ネット」という省略形で呼ばれるようになったのもこの頃からです。皆さんは、生まれた時から、テレビ、ラジオ、インターネット、携帯やスマートフォンなどから山のような情報を浴び、常に他人と結ばれ、四六時中、刺激的でしかも断片的な情報に首まで、いや頭まで浸かっています。こうした情報の氾濫から自分を切り離すためには、本を読むことが一番です。本は何よりも一人で読むものであり、一人ずつ違った速さと深さで読む、繰り返して読む、飛ばして読む、行ったり来たりして自分の読解の中身を確認する、活字の塊である本に、想像力を加え、能動的に読み進めていく。読書によって孤独を取り戻しましょう。そして、今まで多くの先輩たちがしてきたように、^{かまびす}喧しい世界を^{いつとき}一時忘れ、「秀麗の気につつまれて 学ぶわが幸」学ぶことができる幸せを噛みしめながら、「深く静かな夢」を紡いでください。その上で、友人と、親と、教師と、地域の方々と繋がることによって、**深く静かな孤独に裏付けされた自立した心は、宇宙の如く無限に広がっていくはず**です。

（ところで、以前の校歌「むらさき匂ふ安積山」の「むらさき」は何のイメージなのか、単に歌枕としての「花かつみ」をイメージしただけなのか、私には分かりませんが、かつての「郡女生」現在の「郡山東高生」というと、秋に咲く桔梗（ききょう・きちこう）の青紫をイメージします。郡山市の花であり校章にもなっている、夏に咲く花かつみ（あやめ・しょうぶ）の紫よりも、やや地味ではありますが、一本芯の通った強い花というイメージがあります。

この桔梗については、小林一茶が

きりきりしゃんとして咲く桔梗（ききょう）かな と詠み、詩人齋藤 ^{みつぐ}貢
こと本校の齋藤貢一校長先生は、詩集『モルダウから^{やまぶき}山振まで』（H18）の中で、
「桔梗という名の 静謐な器」について、その凜々しい美しさと指切りの約束の
思い出などをうたった、実に素敵な詩を書いています。）

私の勝手な思い込みではなく、桔梗のようにきりきりしゃんとして凜々しい本校の卒業生は27,000名余を数え、国内外の様々な分野で活躍していると伺っていますが、その先輩の方々や地域の皆さんが見守ってくれています。何よりも面倒見のよい先生方が皆さんを導いてくれます。

最後になりますが、郡山東高校の生徒の皆さん、皆さんの深く静かな夢が実現すること、深く静かな孤独に裏付けされた自立した皆さんの心が、宇宙の如く無限に広がっていくことと、100周年、更にその先へ向けた、郡山東高等学校の益々の発展をお祈り申し上げ、私のお祝いの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございます。

郡山淑徳女学校時代～昭和8（1933）年制定

- | | | |
|---|------------|------------|
| 一 | むらさき匂ふ安積山 | 水うるはしき逢瀬川 |
| | 秀麗の気につつまれて | 学ぶわが幸 わが恵み |
| 二 | 日毎の教へ導きに | 勤労つねに尚びて |
| | 礼儀を正し温順に | 強く明るくいそしめば |

新生郡山東高等学校の校歌～平成10（1998）年誕生

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| 一 | きのうは明日へ流れ渦巻き | しぶきをあげる今日がある |
| | 見なれた街の地平をこえて | 心の宇宙無限大 |
| | 耳すまし求める不安 | 目を見はり探る喜び |
| 二 | ここを世界の始まりとして | 深く静かな夢がある |
| | 見なれた友の笑顔にひそむ | 心の宇宙無限大 |
| | 木に学び花に祈って | よみがえれ生きる力よ |